

なつのそら 濁つた雲が切れると太陽は蘇つ

たやうに生々とした光熱を投げかける。彼  
方の山際や遠い水平線の上に純白の夏雲が  
立ち昇つて、そのなめらかな上皮は太陽の  
光を倍にして照りかへす。夏はもはや我々  
の頭上に覆ひかぶさつて、違慮もなく強壓を加へる。

1938年

## 7月の天象

夏の宵の一時の楽しさは盡きない。西天に高くアクトウル（まきを座 $\alpha$ 星）とスピカ（をとめ座 $\alpha$ 星）。これに對して東天に $\epsilon$ ガ（こと座 $\alpha$ 星）とアルタイル（わし座 $\alpha$ 星）、南天にはアンタレス（さそり座 $\alpha$ 星）と、定石の如く配置された、この5星を基點として夏の星座の一つ一つが解きほぐされて行く。

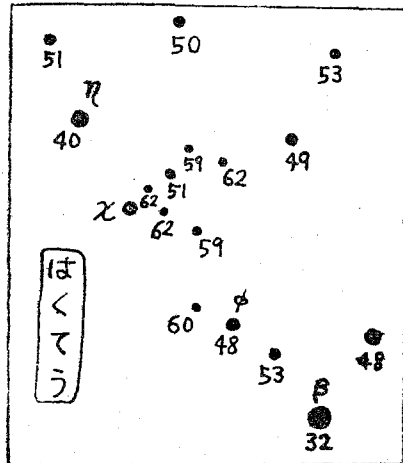
**てんびん座 $\delta$ 星** 7月の極小期のうち5日21時、12日20時半、19日20時半、26日20時の4回が見られるが、始めの2回は月光がある。

**いて座V 505星** 7月の極小期のうち3日24時、9日22時、1日2時、16日24時、22日22時、24日2時半、28日20時、30日0時半が見られ、9日、11日、16日には月の妨げがある。

**はくてう座 $\chi$ 星** 有名なミラ型の長週期變光星であるが、7月1日頃に極大光輝となる由である。極大光度は4乃至5等。週期四百日餘で極小のときには光度は13—14等となる。比較星は左圖の如くである。（この圖で各星の下の數字は光度を示し、たとえば62は6.2等の意味である。）

**彗星** 今年はまだ1つも發見されぬ。ゲール彗星も遂に見つけられぬのではないかと案じられる。

**流星群** 7月初めはケンネケ群が見え、中旬下旬には水瓶座 $\delta$ 群やペルセウス群が現はれる。いよいよ夏の流星



はくてう座 $\chi$ 星

シ 1 ズンに入つた。

**冥王星** 太陽系の最奥にあつて容易なことでは見られない。“かに”座の西端を順行中で7月24日に會合となる。

**海王星** “しし”座σ星の南東を順行中。光度7.8。視半径1.2秒。太陽が後から迫つて來た。

**天王星** “ひつじ”座の東南部を順行中。光度6.2。視半径1.7秒。夜半すぎに東に現れる。

**土 星** “うを”座の南東部を順行中であるが8月1日に停留となり以後逆行する。光度は0.9から0.7に増す。11日に西短(見かけ上、太陽から西方へ90度離れて見えること)となつてますます太陽より離れ、天王星より約2時間前に東に昇る。観測季に入つたわけだ。環の幅も今年の極大にまで達した。

**木 星** “みづがめ”座を逆行してをり、光度は負2.2から月末には負2.4に増す。夜半の南天に燦然と君臨して我々を惹きつける。

**火 星** “ふたご”から“かに”に順行してゐて、25日には合となる。太陽と共に出没して全く見られない。

**金 星** “かに”座から“しし”座の東部まで順行し、7月31日には海王星に接近する(角距離26分)。宵の西天に負3.4—3.6の强光を放つてゐる。

**水 星** “ふたご”の東部から“しし”の中央まで順行する。宵天で次第に太陽より離れ8月1日には極大離角27度にもなるから、7月下旬から8月上旬にかけての観測季を見逃せない。光度は負1等から1等に減するが視半径は2.6秒から3.7秒に増す。月末には光度1.3のレグルス(しし座α星)の南側を通過する。

**月** 7月には上弦が4日(をとめ座)、満月が13日(いて座)、下弦が20日(うを座)、新月が27日(かに座)。

望遠鏡を持つと最初にのぞかれる月ではあるが、あの一寸考へれば全く變化の起りさうにも思はれぬ月を自分の對象として絶えず注目してゐる人は一體どれくらゐあらうか。

**小遊星ヴェスタ** その後の豫報位置は下の通り(天界第204號の續き)。

|       |            |            |        |
|-------|------------|------------|--------|
| 七月 1日 | 赤經 15時30分3 | 赤緯 -12度49分 | 光度 6.2 |
| 9     | 15 30.0    | 13 33      | 6.3    |

|       |         |        |     |
|-------|---------|--------|-----|
| 17    | 15 31.6 | 14 22  | 6.4 |
| 25    | 15 35.3 | 15 15  | 6.5 |
| 八月 2日 | 15 40.7 | 16 11  | 6.6 |
| 10    | 15 47.8 | 17 9   | 6.8 |
| 18    | 15 56.3 | 18 6   | 6.9 |
| 26    | 16 6.1  | 19 3   | 7.0 |
| 九月 3日 | 16 17.2 | 19 58  | 7.1 |
| 11    | 16 29.3 | 20 49  | 7.2 |
| 19    | 16 42.3 | 21 37  | 7.3 |
| 27    | 16 56.2 | -22 21 | 7.4 |

**小遊星ハラス** 来る9月11日に衝となる。豫報位置は次の通り、但し毎日日本時刻9時の値。

|       |            |           |        |
|-------|------------|-----------|--------|
| 七月 1日 | 赤經 23時37分1 | 赤緯 +8度20分 | 光度 9.4 |
| 5     | 23 38.4    | 8 16      | 9.4    |
| 9     | 23 39.4    | 8 10      | 9.3    |
| 13    | 23 40.2    | 8 1       | 9.2    |
| 17    | 23 40.7    | 7 50      | 9.2    |
| 21    | 23 40.9    | 7 35      | 9.1    |
| 25    | 23 40.8    | 7 18      | 9.1    |
| 29    | 23 40.3    | +6 57     | 9.0    |

**小遊星ジュノ** その後の位置は下の通り（天界第203號の續き）。

|       |            |           |         |
|-------|------------|-----------|---------|
| 六月 3日 | 赤經 16時28分6 | 赤緯 -3度26分 | 光度 10.0 |
| 7     | 16 25.3    | 3 18      | 10.0    |
| 11    | 16 22.0    | 3 13      | 10.0    |
| 15    | 16 18.8    | 3 10      | 10.0    |
| 19    | 16 15.9    | 3 9       | 10.0    |
| 23    | 16 13.1    | 3 10      | 10.0    |
| 27    | 16 10.5    | 3 13      | 10.1    |
| 七月 1日 | 16 8.2     | 3 19      | 10.1    |
| 9     | 16 4.5     | 3 35      | 10.1    |
| 17    | 16 2.0     | 3 59      | 10.2    |
| 25    | 16 0.8     | 4 29      | 10.3    |
| 八月 2日 | 16 0.9     | -5 3      | 10.3    |

(P)

**紙上プラネタリウム** 天體運動の中で、最も興味の深いものは日月火木金土の“七遊星”の黄道運行であること、東洋西洋共に幾千年の昔しから知られてゐる。之れを模型的に表はしたものが大阪にあるプラネタリウムであるが、更に之れを簡易化して、一枚の星圖上に表はしたものが本誌附録にあるやうな月刊簡易星圖である。